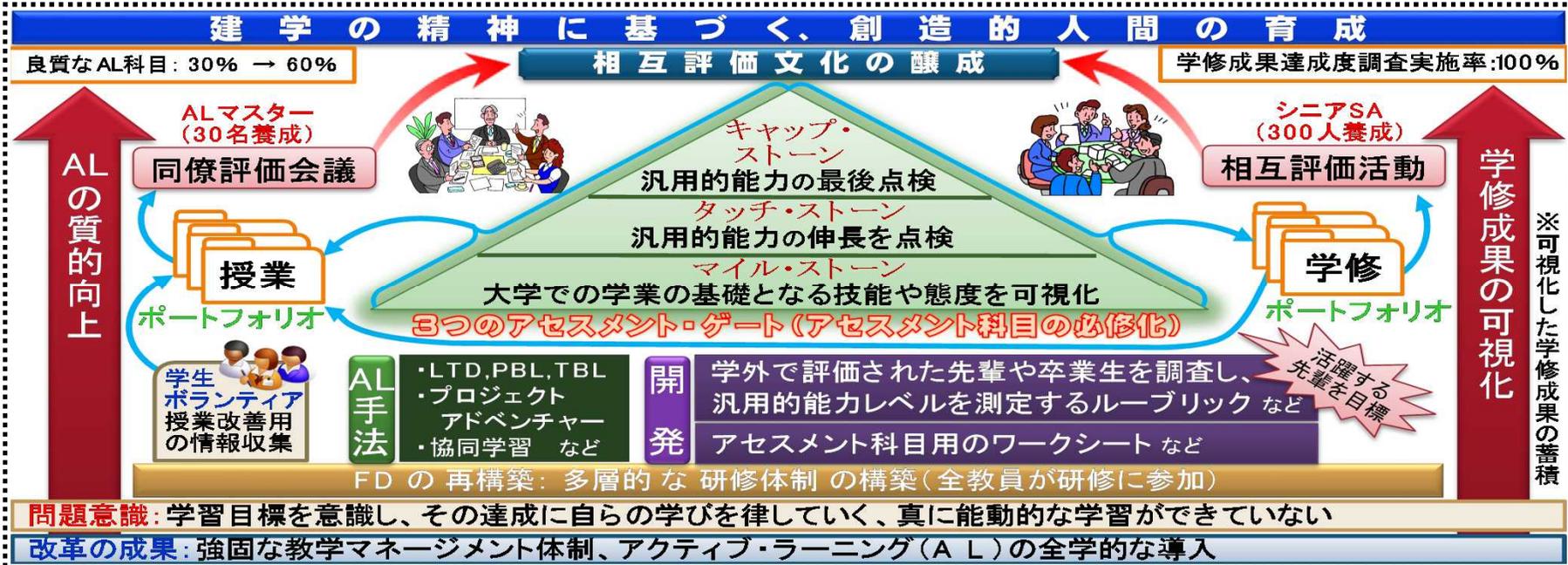


大学等名：創価大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型テーマ

本事業では、アクティブ・ラーニング(AL)導入科目の質的向上により授業外学習時間の増加と理解度の向上を図り、様々な評価指標の開発を通じてALの学修成果の可視化を加速させ、評価の文化を醸成する。自らの学修過程や成果を正しく把握し、次への展望を描く力は、他者・社会への貢献を志向する本学が目標とする「創造的人間」にとって欠かせない素養である。そこで、AL手法を導入した、学年進行に応じた学修成果測定を主な機能とするアセスメント科目(3つのアセスメント・ゲート)を用意し、教える側と学ぶ側、双方がその科目の目標達成にどの程度貢献できたのかを点検する体制を整える。



事業の成果	28年度 (目標値)	30年度 (目標値)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	経営学部100%	全学部100%
学生の授業外学修時間	経営学部80分	全学部80分
良質なアクティブ・ラーニング科目割合	35%	60%
優れたリーダーシップを持つ学生の養成数	経営学部55人/ 1200人	全学部300人/ 7600人
アクティブ・ラーニングを行う学部専任教員数	経営学部19名/ 19名(100%)	全学部210名/ /280名(75%)

本取組は、教員相互、学生相互に授業に対する自らの取組みを振り返る機会を与える。この相互評価により、教員は学生の成長のための授業を自覚し、学生は自らの学びに責任を持つ。切磋琢磨しあって能動的に学び、人間的に成長する学び舎の構築こそ、『人間教育の世界的拠点』形成に不可欠な改革であり、本事業をこの拠点作りを目指す上での大きな契機と位置づけている。